

## 20 ヴェルネ 『アंकロワイヤールとメルベイユーズ』

Vernet, Horace. *Incroyables et merveilleuses*. Paris, ca. 1815. 33 plates 42.5 × 30.5cm  
<383. 135-V>

Hiler p. 875    Colas 2992    Lipp. 1154

33枚のプレートからなる手彩色銅版画集である。各プレートにアंकロワイヤール(男性)とメルベイユーズ(女性)のタイトルがつき、簡単な衣装説明が付記されている。発行者、発行年などは不明であり、表題や解説はない。ヴェルネの筆になるのは No. 1～31まで、残りの2枚はランテ(Louis-Marie Lanté 1789～?)の作であり、版画はすべてガティヌ(Georges-Jacques Gatine, 1773～1824)による。

ヴェルネ(1789—1863)は、祖父が有名な風景画家ジョゼフ(Joseph V.), 父は風俗や戦争画で名高いカルル(Carle V.)という血筋を受け継ぎ、著名な戦争画家として活躍した。本書は若年の頃のデッサンによるもので、当時発行されていた *Journal des Dames et Modes* にも彼は作品を発表しているところから、類似の作品が本プレートにも入っていると考えられる。

アंकロワイヤールとメルベイユーズは、総裁政府時代(1795—99)にパリに現われた一風変わった身なりをした若者たちのことであり、急進左派のサンキュロットに対抗して王党びいきのブルジョアの子弟が奇抜な衣装と変った言葉づかいでアピールしたものである。本書は、衣装のスタイルの上からみて発行年が1815年頃と推定されており、上述と時代的なずれが生じているが、この点に関しては1955年刊行の復刻版、つまり *Incroyables et merveilleuses*, Paris 1810—1818, Paris, Éditions Rombaldi, 1955 <383. 135-C-5> において、国立図書館の版画室長ヴェイジェル(Roger-Armand Weigert)は次のように解説している。オラーズの父カルルがかつて描いたカリカチュアのアंकロワイヤールとメルベイユーズのデッサンの精神を真似て、1815年前後の風俗をいくらか誇張と風刺をこめて描いたものであり、当時の *Journal des Dames et Modes* (99) などとの比較検討により、それぞれ1810年から1818年にかけて描かれたものであることを確認している。したがって本書の中味は、ナポレオンの帝政時代のパリと王政復古初期の若者の風俗をやや誇張して表現した作品集ということになる。

手首まで隠れる長い袖、高い衿とクラヴァット、派手なベストにテールのない上着、脚にフィットしたキュロットといったいで立ちに、杖やしやしやら鳴る時計の飾りやめがねといった付属品できめた洒落者。パーカル布地のローブから覗く足首といきな靴、カポットにパラソルの娘たち。いかにも気取った表情と身ごなしに当時の風俗が巧みに表現されている。(辻)